

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570300634
法人名	(株)悠隆
事業所名	グループホーム「ととろの杜」
所在地	宮崎県延岡市土々呂町5丁目2565-1 (電話)0982-23-8309
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年7月25日

## 【情報提供票より】(19年7月5日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	12.1人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	2階 ~ 2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	120 円	昼食 240 円
	夕食	240 円	おやつ 66 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(7月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	田中医院 延岡保養園
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

延岡市の市街地で国道寄りの静かな所にある。周りには緑が点在し、全室陽あたりの良い明るい部屋に位置している。一階が有料老人ホーム、2階がグループホームになっている。「気配り」「目配り」「心配り」を理念に、一人ひとりの認知症高齢者に対し専門性を活かした関わりがなされている。入居者は生き生きとして表情も明るい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題として、食事を楽しむことのできる支援に対し、職員が入居者と一緒に食事を取ることで個々のペースに合わせた細やかな援助がなされている。成年後見制度の周知についても、現在、後見人を利用している入居者を1名受け入れ、10月には勉強会を開催する予定となり前向きな取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の結果からも現状にとどまることなく更なるケアの向上を目指し、管理者、職員が前向きに取り組む姿勢が見られ、認知症高齢者ケアの専門性を深める努力がうかがえる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回、実施されている。民生委員の橋渡しで、幼稚園との交流など取り組まれている。メンバーに消防署や警察、地域包括支援センター等の参加を呼びかけており、今後さらに一体化した支援が実現できるよう取り組んでほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情に関しては面談時や運営推進会議、電話等で出してもらえよう働きかけている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の幼稚園を中心に運動会やバザーの行事で交流している。さらに住み慣れた地域で暮らし続けることの支援、多様な地域資源活用や活動への参加等、積極的な取り組みが望まれる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域社会と交流をもち・・・」を理念に住み慣れた地域での支援を、朝の朝礼で毎日復唱することで職員の啓発に努める取り組みがなされている。		「住み慣れた地域で生活を継続する」視点から理念について、さらに深めてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の作成にあたり職員と管理者が、一緒に考え自分たちの言葉で作成されている。介護の基本を「気配り」「心配り」とされ、認知症高齢者の生活を支える取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には参加されていないが、地元の幼稚園で行う行事(運動会・バザー)に参加している。また、2ヶ月に1回園児がホームに訪問し入居者との交流を深める機会がある。	○	地元の人々との交流がさらに深まるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関に自己評価結果が掲示されており誰でも閲覧できるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議が開催されている。メンバーは入居者家族、介護保険課職員、民生委員、管理者等で、民生委員の仲介で幼稚園と交流がもてるようになった。また、警察や消防署にも参加の声かけを行っている。		さらに運営推進会議の体制を充実させて、地域に開かれたサービスをすすめてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	医療連携体制加算を取るとき市町村に相談、助言を得ている。ととの地区に包括支援センターがあり連絡をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が月1回は面会に訪れているため、面談し状況報告、必要時は電話連絡している。金銭管理については出納帳に家族確認サインをいただいている。また、四季毎にホーム便りを作成し家族へ送付する取り組みがなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明事項に公的苦情窓口を掲載し、家族に説明をしてサインをいただいている。また、家族会開催時や電話で要望を受ける他、民生委員の電話番号を家族に伝え、意見や苦情を言やすい取り組みがなされている。		さらに気安く、率直な意見や不満、苦情を言いやすいよう働きかけてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員はホーム便り等で紹介している。職員教育については本部で一日研修を行い、仕事の引継ぎできるよう10日くらい一緒に勤務を組むなどの配慮がなされている。	○	利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよう異動や離職を最小限に抑える取り組みが期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多数の常勤・非常勤の職員が参加できるように内部研修等は夜間に実施している。また、内容については職員全員が共有できるよう1回/月の会議で伝達されている。	○	さらに、年間計画に研修を位置づけ計画的に研修機会を確保できるように工夫してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加し、連絡協議会が主催する研修に参加し交流を深める取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に訪問できる方に対してはホームを見学してもらい、入居していただいている。施設からの直接入居となる場合は、施設でご本人・家族に面談したり、スタッフに情報収集をして対応を相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の時、表情の固い入居者に対し職員の対応で不安が解消され穏やかな表情となっている。入居者のペース、能力に合わせて1時間かけて食事介助、見守りがなされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を表現することができない入居者に対し、日々のケアの中で表情の変化でくみ取りケアする取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、職員から情報を収集し、担当者会議で検討、個別計画が立案されている。	○	介護計画を作成する過程でアセスメント記録に本人や家族の希望が明記されている事が望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時、終了期間前、状態変化時と3か月に1回のモニタリング、更に6か月に1回ケアプランの見直しが行われている。		3か月に1回のモニタリングを活かして、3か月に1回のプランの見直しに繋げてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1回/月、買い物や行事を取り入れるなどの配慮がなされている。家族の宿泊は現在までないが、希望があれば支援する取り組みがなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	治療が必要な入居者に対して、1回/週往診されている。かかりつけ医の受診も、本人や家族の希望を取り入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院時と症状に応じて段階的に主治医を通して説明されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴時一人ひとりの人格を尊重した声かけがなされている。排泄の声かけもさりげなく配慮されている。重要説明事項に秘密厳守が明記されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は本人のペースに合わせて食事時間も調整されている。また一人ひとりのペースに合わせた細やかな声かけ誘導されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき、味付け、盛りつけ、後かたづけ等を職員と一緒にやっている。また、入居者に合った調理形態も配慮され、食べようとしない入居者に対し根気強く声かけされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3回/週の入浴を提供されている。入浴時不安で大声をだされる入居者に対し一緒に歌を歌い気分転換を図るなどの配慮がなされている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字やパズル、裁縫など趣味を取り入れた楽しみが提供されている。また、調理、盛りつけ、後かたづけなど残存機能を活かした関わりがされている。1～2回/月 買い物支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	4月お花見、5月昼食会など外出の支援が行われている。食材購入時入居者と買い物に行くなどの取り組みがある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	9時～16時まではホーム(2階)の入り口の鍵はかけない。1階の事務所で見守り協力を合わせて、安全管理を行っている。	○	今後も、鍵をかけないケアへの取り組みをすすめてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震、水害のマニュアルや災害時の備蓄がある。また、火災を想定した避難訓練を行っている。夜間の災害時は1階職員の応援を依頼するシステムとなっている。	○	ホームが2階にあるため階段を使っでの避難となる。シューター等の設置検討や、地域の人々や消防・警察との連携が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェック表や飲水量チェック表があり管理されている。また、利用者の状態に応じて食事形態を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアに観葉植物を置き、入居者が親しみを感じれる工夫がされている。また、簡易の畳みを準備しつろげる工夫の他、ソファやテレビを置きつろげる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や趣味の作品等を飾って居心地のよさを工夫している。		